CampbellCollaboration

Plain Language Summary
International Development

2017

契約農業は、富裕層の農家の収入を向上させる

エビデンスは、契約農業の取り決めで、長時間継続するための農家に明確な誘引を提案する必要があることを示唆している

このレビューの目的は何か？

このキャンベルの系統的レビューでは、低および中所得国の小規模農家の収入と食料安全保障に対する契約農業の影響を調査する。 このレビューでは、75件のレポートからの調査結果を要約し、そのうち22件（26件の契約農業介入をカバー）がメタ分析に使用された。

農家と企業の間の販売契約である契約農業は、政府や投資家に人気がある。 契約農業は、農民に相当な収入をもたらすことができる。 さらに、これらの利点は、契約農業スキームが存続するために必要となる可能性がある。 富裕層の農家は、契約農業スキームに参加する可能性が最も高い。

このレビューは何を調査したのか？

契約農業は、生産を開始する前に合意された販売契約であり、農家にリソースまたはサービスを提供する。 会社が提供するサービスパッケージは場所ごとに異なり、輸送や認証、投入素材の提供や、融資を含めることができる。

この系統的レビューでは、小規模農家の所得効果に関するエビデンスを要約し、平均効果を評価し、これらの効果を高める要因の組み合わせを探る。

何の調査が含まれていたのか？

含まれた研究は、低・中所得国の小規模農家の収入と食料安全保障に対する契約農業の影響を調査しなければならなかった。 研究では、選択効果を考慮して、適切な統計的手法を備えた比較グループを使用する必要があった。

契約の影響を定量的に評価した75の研究を特定し、そのうち7471人の回答者を対象とした22の研究は、収入の影響のメタ分析にかけるのに十分な厳密さであった。 メタ分析は13の発展途上国における契約農業の26の実証研究を対象とする。

このレビューの主たる結果は何か？

契約農業は、23～54%の範囲の平均効果で、農家の収入を大幅に増加させる可能性がある。これらの推定値には、個々の研究における生存者バイアス（計画から脱落した農家に関するデータはない）そして、エビデンス本体（最初の年代で潰れた契約農業の取り決めについての研究）、および文献の出版バイアス（重要でない結果の過少報告）のため、推定値には上方バイアスがある。ゆえに、調査結果の解釈には注意を要する。

マーケティングにおける自主性を放棄し、サイドセリング（Side-selling：契約を遵守せずに他の人を売ること）を防ぐためには、農家に対して大幅な収入の増加を提示する必要がある。このことは特に一年生作物や企業が協同組合としてではなく農家と直接契約している場合に当てはまる。

このエビデンスはどれくらい最新のものか？
レビュー作成者は、2015年10月までに公開された研究を探索した。このキャンベル系統的レビューは2017年12月に公開された。

キャンベル共同計画とは何か？
キャンベル共同計画は、系統的レビューを公開している、国際的・自主的・非営利の研究ネットワークである。我々は、社会および行動科学のプログラムに関するエビデンスの質を評価し、まとめている。我々の目的は、人々がより良い選択そして政策決定ができるように手助けをすることである。

この要約について
この要約は、Howard White (Campbell Collaboration)が Giel Ton, Sam Desiere, Wytse Vellema, Sophia Weituschat and Marijke D'Haese 著、『Campbell Systematic Review 2017:13 The effectiveness of contract farming for raising income of smallholder farmers in low- and middle-income countries: a systematic review(DOI10.4073/ csr.2017:13)』に基づいてして作成したものである。Tanya Kristiansen (Campbell Collaboration)がこの要約の再デザインおよび編集をした。この要約の作成のための American Institutes for Research(A I R)からの財政支援に感謝の意を表する。

通常、貧しい農家は通常、契約農業スキームの一部ではない。事例の61%において、契約農家は、当該地域の平均農家よりもはるかに広大な土地所有者であるかもしくは資産を有していた。

このレビューの知見は何を意味するのか？
契約農業は、契約上の取り決めをカバーしている。この不均一性により、このトピックで公開されている文献から一般的な結論を引き出すことは困難である。「失敗した処置」に関する研究の欠如は、契約農業の有効性の過大評価につながる。

さらに、分析では、顕著な出版バイアスが示唆されている。すべての研究は、肯定的かつ統計的に有意な収入効果を持つ契約農業の少なくとも1つのケースについて報告している。

比較的大規模または裕福な農民はこれらのリスクにうまく対処できるため、契約上の取り決めに参加する可能性が高くなる。これは、契約農業が農業人口の比較的裕福な区分に、より適していることを意味する。

さらなる研究は以下を行う必要がある。(1)介入についての報告を改善する。(2)契約農業の成功率の低い事例を文書化し、決定的でない結果(重要でない影響)を報告する。(3)(地区全体の)技術革新や生活改善力など、契約農業の他の成果を把握する。